

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第52期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社ダスキン
【英訳名】	DUSKIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山村輝治
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第3四半期連結 累計期間	第52期 第3四半期連結 累計期間	第51期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	126,866	127,965	168,163
経常利益(百万円)	9,309	7,596	11,027
四半期(当期)純利益(百万円)	5,419	4,222	6,092
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	6,165	6,443	9,095
純資産額(百万円)	151,442	154,739	152,811
総資産額(百万円)	197,132	200,356	202,375
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	84.38	67.32	95.15
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	76.4	76.6	75.1

回次	第51期 第3四半期連結 会計期間	第52期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	38.22	18.59

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、ダスキン共益株式会社は、第1四半期連結会計期間においてダスキン保険サービス株式会社を吸収合併いたしました。また、エムディフード株式会社を、第1四半期連結会計期間において設立いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）の我が国経済は、政府による各種経済政策を背景にして企業収益に改善が見られる等、全体としては回復基調で推移しました。その一方で、原材料価格の高騰や消費税率引き上げの決定等、先行きの不透明感は払拭できない状況が続いております。

このような環境の中で、創業50周年を迎えた当社は、期初より、これまでの感謝を込めた謝恩活動をフランチャイズ加盟店と一丸となって展開すると共に、一人でも多くの方に当社の商品・サービスをご利用いただくべく、“仕組みの改革”を推し進めており、中期経営方針の基本方針に沿った取り組みを継続しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は1,279億65百万円（前年同期比0.9%増）となりました。一方、同期間の利益面につきましては、フードグループが大幅な減益となり営業損失を計上したこと等により各段階で減益となり、連結営業利益は62億68百万円（前年同期比20.6%減）、連結経常利益は75億96百万円（前年同期比18.4%減）、連結四半期純利益は42億22百万円（前年同期比22.1%減）となりました。

<セグメント毎の状況>

クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場、事業所市場とも厳しい状況が続いており、前年同期の売上高を下回りました。

家庭市場においては、普段ご自宅ではなかなかお会いできない方に対して、ショッピングセンター等のお出掛け先で当社商品を紹介する「オタメシ祭り」を全国各地で開催しました。従来商品より高機能でスタイリッシュなフロアモップ「L a L a」、ハンディモップ「shushu」、集めたゴミやホコリを吸い取る置き型式掃除機「ダストクリーナー」の3点を組み合わせた“お手軽本格おそうじ”を中心に、実際に使ってみていただいて、ホコリの取れ方や使い勝手等を体感していただくこの催しは非常に盛況で、これら3点のレンタル売上高は順調に増加しました。その他には、キャラクターデザインを採用した台所用スポンジ、白木や畳等でも使用可能な床用モップの新商品スタイルフロア「S a l a l a」等も好評を得て順調に推移しました。更には、既存の洗剤等を上品で高級感溢れるものに改良したローズシリーズを年末恒例の掃除道具セット「くらしキレイBOX」にも採用し、年末の企画商品とセット販売することで、女性の共感を得て売上高が増加しました。しかしながら、ハンディモップ等の売上高が減少し、モップ商品全体では売上高が減少した他、浄水器等も低迷し、家庭用ダストコントロール商品全体では前年同期の売上高を下回る結果となりました。一方、エアコンクリーニング、台所や浴室等の水周りクリーニング、家事おてつだいサービス等の家庭向けの役務提供サービスにつきましては、依然として順調に推移しました。

数年低迷が続いている事業所市場は、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業に引き続き注力しました。更に、営業活動を専門に行う“営業拠点”の設置に着手しました。フランチャイズ本部である当社とフランチャイズ加盟店が一体となった営業体制を構築し、繰り返し訪問することでお客様との関係性を強化することに力を置いた活動に取り組みましたが、主力商品であるマット商品をはじめ、ほぼ全てのダストコントロール商品の売上高が前年同期を下回りました。しかしながら、害虫駆除サービス等が順調に推移した事業所市場向けの役務提供サービスにつきましては、前年同期の売上を上回りました。

以上に、介護用品レンタル、イベント受注が好調に推移したレントオール事業及びその他の事業を加えたクリーンケアグループ全体の売上高は844億65百万円（前年同期比0.6%増）となりました。一方営業利益は、マット新商品の原価が先行したこと等で、114億5百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

フードグループ

ミスタードーナツ事業は、ブランド価値を向上させることに集中して取り組み、前年同期の売上高を上回りました。4月には今まで以上に風味を高めるオイルを開発・導入し、同時に「オールドファッション」等の人気定番ドーナツの生地をリニューアルすると共に、ドーナツをコーティングするグレーズ(砂糖蜜)も一新して「TRY! NEW MISDO!」と題したプロモーションを実施しました。更に9月には、豆の品質・焙煎方法にこだわり、よりおいしくなった「ミスドオリジナルローストコーヒー」を発売しました。また、発売から10年を迎えたボン・デ・リングの10周年企画商品の発売、旬の素材を活かした季節感溢れる商品やキャンペーンの展開、或いは、カルピス株式会社等有名企業とのコラボレーション商品等、話題性を喚起する取り組みにも注力しました。6種の一口サイズドーナツを6個、18個、30個入りの専用容器に詰めあわせた「ミスドピッツ」は、家族や友達同士等大人数で和気あいあいと食べていただくというドーナツの新しい食べ方提案が話題を呼び、その後も季節毎に変わるバリエーションが支持を得ております。

以上に、前期7月より連結を開始した蜂屋乳業株式会社及びその他のフード事業を加えたフードグループ全体の売上高は356億45百万円(前年同期比1.0%増)となりました。一方営業利益は、小麦等原材料価格高騰の影響に加え、「TRY! NEW MISDO!」による宣伝広告費の増加等により、1億37百万円の営業損失(前年同期は営業利益11億43百万円)となりました。

その他

海外のミスタードーナツ事業は、タイ、フィリピン、マレーシアは好調に推移したものの、不採算店をクローズし店舗数が減少した台湾、中国(上海)、韓国の売上が減少した結果、合計では前年同期の売上を下回りました。

海外のクリーン・ケア事業は、展開している3カ国のうち、台湾、韓国につきましては順調に推移しました。中でも台湾は、ダストコントロール事業と役員提供サービスの相乗効果で順調に売上が増加しました。しかしながら、事業所市場の売上が低迷した中国(上海)は、前年同期の売上を下回りました。

以上に、リース事業等を営むダスキン共益株式会社等の関係会社を加えた、その他全体の売上高は78億55百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は2億41百万円(前年同期比14.9%減)となりました。

なお、11月8日にフィリピンを襲った台風30号では、現地のミスタードーナツ28店舗が被災したものの、売上全体に占める割合は小さく、当社業績への影響は極めて軽微であります。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6億43百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設、大規模改修計画は次のとおりであります。

大規模改修
提出会社

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
ミスタードーナツカレッジ	大阪府吹田市	フードグループ	教育研修設備	984	17	自己資金	平成25年11月	平成26年11月	(注)1

国内子会社

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
(株)ダスキンプロダクト東海	愛知県小牧市	クリーンケアグループ	吸着剤製造設備	331	-	自己資金	平成26年2月	平成28年7月	(注)1

- (注) 1.販売又は生産能力に重要な影響はありません。
2.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

新設
国内子会社

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
共和化粧品工業(株)	大阪府八尾市	クリーンケアグループ	化粧品製造設備	526	4	自己資金	平成25年11月	平成26年10月	生産能力向上

- (注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	64,994,823	64,994,823	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	64,994,823	64,994,823		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		64,994,823		11,352		1,090

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載を行っております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,414,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 62,500,800	625,008	
単元未満株式	普通株式 79,323		
発行済株式総数	64,994,823		
総株主の議決権		625,008	

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダスキン	大阪府吹田市豊津 町1番33号	2,414,700		2,414,700	3.71
計		2,414,700		2,414,700	3.71

(注)平成25年12月31日現在で保有している自己株式は、2,415,537株(発行済株式総数の3.71%)であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,255	19,948
受取手形及び売掛金	10,366	11,948
リース投資資産	1,782	1,620
有価証券	13,998	5,999
商品及び製品	6,203	6,806
仕掛品	175	155
原材料及び貯蔵品	2,133	1,865
繰延税金資産	2,609	1,631
その他	2,684	3,156
貸倒引当金	46	63
流動資産合計	59,162	53,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,138	41,571
減価償却累計額	24,262	23,850
建物及び構築物(純額)	17,876	17,720
機械装置及び運搬具	23,624	23,579
減価償却累計額	17,247	17,328
機械装置及び運搬具(純額)	6,376	6,251
土地	24,231	24,061
建設仮勘定	279	736
その他	13,683	12,999
減価償却累計額	9,328	9,494
その他(純額)	4,355	3,505
有形固定資産合計	53,120	52,274
無形固定資産		
のれん	688	627
その他	7,788	6,796
無形固定資産合計	8,477	7,424
投資その他の資産		
投資有価証券	67,684	75,189
長期貸付金	108	13
繰延税金資産	5,147	4,006
差入保証金	7,498	7,276
その他	1,385	1,303
貸倒引当金	209	201
投資その他の資産合計	81,614	87,589
固定資産合計	143,212	147,288
資産合計	202,375	200,356

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,975	7,213
短期借入金	-	33
1年内返済予定の長期借入金	99	80
未払法人税等	2,066	387
賞与引当金	3,362	1,730
ポイント引当金	1,292	675
資産除去債務	2	13
未払金	6,229	5,749
レンタル品預り保証金	10,326	10,588
その他	4,443	3,703
流動負債合計	34,798	30,177
固定負債		
長期借入金	89	-
退職給付引当金	13,284	14,032
債務保証損失引当金	11	1
資産除去債務	592	585
長期預り保証金	748	752
長期未払金	37	37
その他	0	29
固定負債合計	14,764	15,439
負債合計	49,563	45,616
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,841	10,841
利益剰余金	132,222	132,680
自己株式	3,092	4,000
株主資本合計	151,323	150,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	943	2,900
繰延ヘッジ損益	3	0
為替換算調整勘定	371	284
その他の包括利益累計額合計	568	2,616
少数株主持分	919	1,249
純資産合計	152,811	154,739
負債純資産合計	202,375	200,356

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	126,866	127,965
売上原価	72,069	73,088
売上総利益	54,796	54,877
販売費及び一般管理費	46,900	48,608
営業利益	7,896	6,268
営業外収益		
受取利息	698	709
受取配当金	201	220
設備賃貸料	90	83
受取手数料	218	178
営業権譲渡益	131	11
雑収入	366	389
営業外収益合計	1,707	1,593
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	40	7
持分法による投資損失	64	99
支払補償費	65	101
賃貸借契約解約損	33	0
雑損失	87	54
営業外費用合計	294	266
経常利益	9,309	7,596
特別利益		
固定資産売却益	0	6
投資有価証券売却及び償還益	939	-
その他	97	14
特別利益合計	1,037	20
特別損失		
固定資産売却損	3	37
固定資産廃棄損	118	84
減損損失	67	24
投資有価証券評価損	706	-
その他	17	1
特別損失合計	912	147
税金等調整前四半期純利益	9,433	7,469
法人税等	3,962	3,110
少数株主損益調整前四半期純利益	5,470	4,358
少数株主利益	51	135
四半期純利益	5,419	4,222

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,470	4,358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	657	1,954
繰延ヘッジ損益	2	0
為替換算調整勘定	22	89
持分法適用会社に対する持分相当額	10	40
その他の包括利益合計	694	2,084
四半期包括利益	6,165	6,443
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,104	6,271
少数株主に係る四半期包括利益	60	171

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

連結子会社であったダスキン保険サービス株式会社は、第1四半期連結会計期間においてダスキン共益株式会社に吸収合併されたため、連結の範囲から除外しております。

エムディフード株式会社を、第1四半期連結会計期間において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証又は経営指導念書の差入れを行っております。

(債務保証)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)	
ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)		ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)	
(株)安住商会	25百万円	(株)安住商会	20百万円
(株)松屋	23	(株)松屋	18
アルファフーズ(株)	22	アルファフーズ(株)	18
その他	20件 57	その他	8件 6
協力工場 (協栄工場融資保証)		協力工場 (協栄工場融資保証)	
(株)アイエムコーポレーション	62	(株)アイエムコーポレーション	54
(株)アズミ	21	(株)アズミ	17
太洋ドライクリーニング(株)	4	(株)北越ダスキン協栄工場	1
(株)北越ダスキン協栄工場	3	(株)太洋	1
当社従業員 (厚生貸付保証)	65件 67	当社従業員 (厚生貸付保証)	51件 66
合計	287	合計	204

(経営指導念書)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)	
統一多拿滋(上海)食品有限公司	71百万円	統一多拿滋(上海)食品有限公司	135百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	5,318百万円	5,219百万円
のれんの償却額	141	174

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,571	40	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	1,285	20	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,261	20	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	2,503	40	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	83,954	35,282	7,629	126,866		126,866
セグメント間の内部売上高 又は振替高	720	10	1,874	2,604	2,604	
計	84,674	35,293	9,503	129,471	2,604	126,866
セグメント利益	11,413	1,143	284	12,841	4,945	7,896

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 4,945百万円には、セグメント間取引消去 8百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 4,936百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年5月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、当第3四半期連結累計期間では404百万円のものれんが発生しております。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	101	40			141
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	326	364			690

- (注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高364百万円(フードグループ)、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高270百万円(クリーンケアグループ)及び平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)のものれん残高31百万円(クリーンケアグループ)等であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	84,465	35,645	7,855	127,965		127,965
セグメント間の内部売上高 又は振替高	697	6	2,038	2,742	2,742	
計	85,162	35,651	9,893	130,708	2,742	127,965
セグメント利益又は損失 ()	11,405	137	241	11,509	5,240	6,268

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 5,240百万円には、セグメント間取引消去13百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 5,254百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失()は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	104	62	7		174
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	337	290			627

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高326百万円(クリーンケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高283百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(楽清(上海)清潔用具租賃有限公司の増資引受)

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

楽清香港有限公司 投資並びに原材料及び資器材の調達
楽清(上海)清潔用具租賃有限公司 ダストコントロール商品の賃貸及び販売

(2) 企業結合日

平成25年12月3日

(3) 企業結合の法的形式

第三者割当増資の引受

(4) その他取引の概要に関する事項

当社の子会社である楽清香港有限公司は、上海地域での家庭市場拡大とフランチャイズ展開を目指すためのビジネスモデルの確立を目的として楽清(上海)清潔用具租賃有限公司が実施する第三者割当増資について、全額引受を行いました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引等として処理しております。

3. 子会社株式の追加取得に関する事項

(1) 取得原価及びその内訳

取得の対価	現金及び預金	417百万円
取得原価		417百万円

(2) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

7百万円

発生原因

追加取得した子会社株式の取得原価が減少する少数株主持分の額を上回っていたためであります。

償却方法及び償却期間

重要性が乏しいため、一括償却しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	84円38銭	67円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	5,419	4,222
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	5,419	4,222
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,225	62,730

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成26年1月30日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式を取得すること及びその具体的な取得方法について決議し、自己株式の取得を以下のとおり実施いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上を図り、株主還元を充実させると共に、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を可能とするため

(2) 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

取得する株式の種類

当社普通株式

取得する株式の総数

1,500,000株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.40%)

取得価額の総額

2,895百万円(上限)

取得日

平成26年1月31日

取得の方法

平成26年1月30日の終値(最終特別気配を含む)1,930円で、平成26年1月31日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)において買付けの委託を行う。

(3) 自己株式取得結果

取得した株式の総数

1,000,000株

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 1.60%)

取得価額の総額

1,930百万円

取得日

平成26年1月31日

2【その他】

平成25年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....2,503百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....40円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成25年12月3日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月13日

株式会社ダスキン

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダスキン及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。